

市立養護老人ホームのあり方について

○6月24日開催「岡山市総合政策審議会保健・福祉部会」の内容

(1) 議題 園長、寮母、給食調理員、栄養技師からの意見陳述

(2) 主な意見等

<寮母>

- ・ 松風園は老朽化が進んでおり、いつもどこかを修繕している状況。また、3人部屋であるため個室と違い、同居者との摩擦がある。
- ・ 定員80名のうち、痴呆性高齢者が17名、無年金者が8名おり、また30名程度が精神病の投薬を受けながら生活している。公立施設は3施設しかないが、市民のため、弱者のために公立施設は必要なのではないか。

<調理員>

- ・ 松風園の調理室は狭いが、清潔に気を付けて業務を行っている。
- ・ お年寄りにはできるだけ家庭の味を味あわせてあげようと一生懸命やっている。
- ・ 問題なのは食事時間である。家庭的な食事時間は最低でも6時だと思っているので、現状の人数の中でどれだけ時間延長ができるか考えているところ。

<栄養技師>

- ・ 入所者の体調や嗜好にあった料理を出すようにしている。
- ・ 食材の仕入れは、安い時期を選んで買い、経費を抑えるようにしているが、輸入ものは安易に使わず、国産、県内産の使用を心がけている。

<園長>

- ・ これからの養護老人ホームのあり方として、下記の3点を基礎に置いて考えると
いろいろな課題が見えてくる。

収容施設ではなく、在宅生活の延長として、一緒に生活をしていること
入所者の生きがいを持った生活、及び自立の支援をすること
入所者の立場に立った生活リズムの組み立てをすること

- 「課題」
- ・ 入浴や食事、日頃の処遇内容は、入所者の要望に沿った工夫ができていないか
 - ・ 地域ニーズを取り入れ、独居老人との会食サービスを園独自でできないか
 - ・ 経費のむだをなくす努力をしているか

そうした課題解決を検討する中で、例えば予算の弾力的な運用や新規事業の速やかな

立ち上げができず、必要時に即対応ができにくいなどの予算の制約や、業務の勤務時間帯内での執行の制約、またフレックスな人員配置ができないなど、公営の限界を感じていることもある。

- ・ ショートステイについては、介護保険制度の導入の影響の他に、地域によっては未だ介護は家族で行うという意識が強く、それが利用者が少ない原因の一つにもなっていると考えられる。
- ・ 友楽園については、公民館と隣接していることから地域住民と交流が多く、非常に恵まれている。

<委員の意見>

- ・ 利用者のケアの質を落とさず、施設の効率的運営が問われている。全国的には約半数が公設公営であるが、公設民営、民設民営の施設が、だんだん増えている。
そこで、公設公営で働いている側から、単に、営利主義でなく弱者に必要な施設という以上の、利用者にとって公設公営でなければならない理由を明確にしてもらいたい。
- ・ 一番の問題は、施設が公設公営であり続けるために、経費あるいは運営の仕方を、施設の全職員が一緒になって検討する姿勢が、極めて欠けているのではという印象を持った。
- ・ 有資格者がスタッフの中でほとんどいないので、スタッフのステップアップが必要ではないか。
- ・ 今あり方の検討をしていることは、既に危機感を持った取り組みが必要であり、夕食時間の問題等すぐに解決を図るべきである。公設民営、民設民営になった場合、職員にとってでなく、利用者にとってどうかということを検討してもらいたい。
- ・ 例えば食事時間について、改善が進まないのは、利用者サイドではなく、職員サイドに立って運営をしているからではないのか。
- ・ 民間施設のように、お年寄りの利用者のあり方をもう少し考えてあげるべきではないか。現在の処遇を見ているとやっぱり公営は、だめかなという気もしてくる。
- ・ 公営は、経費は高いがサービスは普通なのでなく、経費は高いがサービスはすばらしいのがあるべき姿だと思う。市は必死になり良い質のサービスを提供する必要がある。
- ・ 松風園は老朽化が著しく早急な改修が必要であるが、自然環境に恵まれており、土や植木等とふれあえるよう、高層の建物にはしないでほしい。